◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 公開講座　東アジアの平和を考える ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

「日本軍は中国で何をしたのか　―南京事件と大分(仮題)」

講師　ノーモア南京の会 木野村 間一郎 さん

88 年前の 7 月、盧溝橋事件がおきました。日本では「暴支膺懲」（あばれる中国を懲らしめる）という言葉がはやりました。そして中国大陸にたくさんの軍隊を送って、12 月 13 日、首都南京を陥落させました。その現場には徴兵された大分出身者が所属する「歩兵第 47 連隊」がいました。日本国内では「南京陥落万歳」と大喜びして、昼は日の丸を打ち振り、夜は提灯行列で祝いました。しかし、そこには世界中から「人類と文明に対する冒瀆」といわれた悲惨な「南京大虐殺事件」がありました。

80 年前に終わった、かつての日本がやってきた戦争がどのようなものだったのか、考えてみませんか。

南京城（奥）を目指す日本軍
（『画報躍進之日本』1938 年 2 月号）

中国・南京であった日本軍の入城式を大々的に伝えた 1937 年 12 月 18 日の東京日日新聞（現毎日新聞）
（毎日新聞 2022 年 8 月 15 日）

■日時　2025 年 11 月 1 日（土）13:30～15:30（13:00 開場）

■会場　大分市コンパルホール 400 号室

■資料代　300 円

■主催　私たちでつくる東アジアの平和実行委員会　共同代表　徳田靖之・池田年宏

連絡先：私たちでつくる東アジアの平和実行委員会　TEL 080-1760-5540（佐伯）